

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																									
大宮医療秘書専門学校		平成23年3月28日		増田 泰朗		〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1丁目197番1号 (電話) 048-658-0850																									
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																									
学校法人三幸学園		昭和60年3月8日		屋間 一彦		〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641																									
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																										
商業実務	商業実務専門課程	医療秘書科		平成25年文部科学省告示第2号	—																										
学科の目的	「世の中の困難を希望に変える」をミッションとし、本学科は、学校教育法に基づき、医療業界関連分野において活躍する人材を育成するため、必要とされる知識と技術を教授することを目的としている。																														
認定年月日	平成28年2月19日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	101	129	4	18																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員のうち)		専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
240人	184人	0人		9人	15人	24人																									
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価は5点法とする。教科ごとに定められた評価方法で評価する際、100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入し、5点法に換算する。その後、授業態度、出席状況を考慮し1ランクの上下を認める。																										
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月21日～3月31日			卒業・進級条件	教育課程の修了や卒業は、所定の課程を修了し試験等に合格した者について、平素の成績及び品行を斟酌して認める。																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームを紹介するなど、担任のみならず学校に関わる教職員でサポートしている。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 無																										
就職等の状況	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 病院、クリニック、社会福祉施設 ■就職指導内容 履歴書の書き方、面接のやり方などの指導を授業や個別で指導している。また、医療機関とのつながりを持った地域担当教員が受験日の設定等を行っている。 ■卒業生数 76人 ■就職希望者数 75人 ■就職者数 74人 ■就職率 98.7% ■卒業者に占める就職者の割合 97.4% ■その他 ・進学者数: 1人 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年度5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療秘書技能検定 2級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>医療秘書技能検定 3級</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>簿記コンピュータ技能検定 2級</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>簿記コンピュータ技能検定 3級</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>簿記計算能力検定 2級</td> <td>③</td> <td>7人</td> <td>5人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	医療秘書技能検定 2級	③	13人	8人	医療秘書技能検定 3級	③	2人	2人	簿記コンピュータ技能検定 2級	③	20人	8人	簿記コンピュータ技能検定 3級	③	13人	10人	簿記計算能力検定 2級	③	7人	5人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
医療秘書技能検定 2級	③	13人	8人																												
医療秘書技能検定 3級	③	2人	2人																												
簿記コンピュータ技能検定 2級	③	20人	8人																												
簿記コンピュータ技能検定 3級	③	13人	10人																												
簿記計算能力検定 2級	③	7人	5人																												
中途退学の現状	■中途退学者 9名 平成28年4月1日時点において、在学者 182名 平成29年3月31日時点において、在学者 173名 ■中途退学の主な理由 学業不振、学校生活不適切、経済的理由 等 ■中退防止・中退者支援のための取組 5月より個人面談を実施し、個々の悩みを早期に発見・解決する。欠席が続く生徒については、早い段階で保護者へ電話連絡をし保護者の協力を仰ぐ。入学前と入学後のギャップを埋めるため、入学直前の3月に入学予定者向けと保護者向けに学校生活や実習、就職等に関する説明会を実施している。			■中退率 4.9% (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業生を含む)																											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生試験を行い、特待生合格者に授業料免除を行っている。 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 平成29年10月からの指定のため前年度実績なし																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																														
該当学科のホームページURL	<a href="http://www.sanko.ac.jp/omiya-med/">http://www.sanko.ac.jp/omiya-med/</a>																														

<p>1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係</p>																							
<p>(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針</p> <p>医療機関、関連協会等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や目標検定設定、授業方法の改善・工夫に生かす。</p> <p>(1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項  (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項  (3)教科書・教材の選定に関する事項  (4)その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項</p> <p>また医療機関実習(病院実習)を通じ、医療現場における医療従事者として実践的な技術を習得するとともに、業界の動向や求められる人材を把握するため、研究会等との連携を図ることで、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容シラバスやカリキュラムに反映する。また実務能力レベルを計る資格・検定取得に向けても取得率の向上に向けて学習指導方法の見直し、改善に努めることも目的としている。さらに実習先である医療機関に対し、アンケート等を実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらのことによつて得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。</p>																							
<p>(2)教育課程編成委員会等の位置付け</p> <p>教育課程編成委員会構成員は、専門学校と医療機関施設の外部役員から成るものとし、審議を通じて示された施設等の要請その他の情報・意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。</p> <p>【教育課程編成の基本方針決め・前年の問題点抽出】  本学のカリキュラム、取り組み、人材育成など共有を行わせていただいた上、外部委員より、医療機関における必要な人材についてお話を頂いた。その人材育成に向けての専攻分野に關した動向や新たに必要となる人材スキル等の業界の実情をヒヤリングし、委員会で協議をし、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。さらに、前年度の問題点をピックアップし、業界の外部委員からの見識のある改善意見も集約する。</p> <p>↓</p> <p>【教育課程編成の科目詳細決め】  委員会構成員の中の医療秘書福祉専門学校教員によって、各科目の詳細を決定し、また、集約した改善意見も教育課程に反映させ、次年度の教育課程の仮案を完成させる。</p> <p>↓</p> <p>【MS委員会(各医療秘書福祉専門学校代表教員による分野会議)にて教育課程編成の決定】  委員会構成員の中の医療秘書福祉専門学校教員による教育課程の仮案に基づいて、再度、MS委員会で協議をし、次年度の教育課程を決定する。</p>																							
<p>(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿</p> <p style="text-align: right;">平成29年4月1日現在</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>久保田 巧</td> <td>上尾中央総合病院 事務部長 医師事務作業補助研究会顧問</td> <td>平成29年2月1日～平成30年12月31日</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>太田 誠一</td> <td>日本医療事務協会 部長</td> <td>平成29年2月1日～平成30年12月31日</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>前川 祐一</td> <td>大宮医療秘書専門学校</td> <td>平成29年2月1日～平成30年12月31日</td> <td>副校長</td> </tr> <tr> <td>片淵 卓也</td> <td>大宮医療秘書専門学校</td> <td>平成29年2月1日～平成30年12月31日</td> <td>教務課長</td> </tr> </tbody> </table> <p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。  ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)  ②学会や学術機関等の有識者  ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>				名前	所属	任期	種別	久保田 巧	上尾中央総合病院 事務部長 医師事務作業補助研究会顧問	平成29年2月1日～平成30年12月31日	②	太田 誠一	日本医療事務協会 部長	平成29年2月1日～平成30年12月31日	③	前川 祐一	大宮医療秘書専門学校	平成29年2月1日～平成30年12月31日	副校長	片淵 卓也	大宮医療秘書専門学校	平成29年2月1日～平成30年12月31日	教務課長
名前	所属	任期	種別																				
久保田 巧	上尾中央総合病院 事務部長 医師事務作業補助研究会顧問	平成29年2月1日～平成30年12月31日	②																				
太田 誠一	日本医療事務協会 部長	平成29年2月1日～平成30年12月31日	③																				
前川 祐一	大宮医療秘書専門学校	平成29年2月1日～平成30年12月31日	副校長																				
片淵 卓也	大宮医療秘書専門学校	平成29年2月1日～平成30年12月31日	教務課長																				
<p>(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期</p> <p>毎年、年に2回実施するものとする。ただし、委員会委員が緊急に教育課程の改善が必要であると判断した場合には、随時、委員会開催を申し入れることができるという弾力的な体制をとっている。</p> <p>(開催日時)  第1回 平成29年 4月18日 16:00～18:00  第2回 平成29年12月 開催予定</p>																							
<p>(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況</p> <p>・カリキュラムについて(専門科目教育について)  ⇒医療現場現場において必要な人材として即戦力で活躍できる人材育成の為、カリキュラムおよびシラバスの見直し、確認を行うことを検討。その後、医療事務授業担当者にて検定に向けた授業のあり方研修(3月16日(月)開催)を行い、専門知識教育への全国教員間での 情報共有と目標、指導方法の統一を図った。</p> <p>・医療機関実習内容の共有と現場の声について  ⇒実習までの習得しておくべき能力や実習先が求めることの確認。  ・本校における教育指導課題の確認と現場からの意見交換  ⇒学校現場における課題に対する現場意見を頂戴し、具体的改善案の検討を進める。カリキュラム、授業シラバスへの反映に活用し、学校における医療従事者教育の本質(社会人・医療従事者教育)を考える機会とした。</p>																							

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
<p>(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針          本校のカリキュラムの一環として医療機関実習を導入しており、実習を通して医療現場及び医療業務の実際を体験し、知識の習得度の確認と実践、現場で実際に患者様、職員様とのコミュニケーション、対応力を学ばせて頂くことを目的としている。4週間の実習期間を設定し、可能な限り長期間で医療現場での経験を積ませて頂くことで、仕事の緊張感、厳しさのみならず、充実感や遣り甲斐を見出すことでその後の学習意欲の向上と積極的な就職活動へ繋げて行くことを狙いとしている。改めて現場実習の狙い、目的を以下の通り記載する。          ①学校で履修した知識、技術を医療機関において確認するとともに、医療従事者としての自分自身を問い直す機会とする。          ②医療機関における医療従事者の職務内容の理解と、医療現場の仕組みや体制を把握し、自らの社会的役割と責任を学ぶ。</p>		
<p>(2)実習・演習等における企業等との連携内容</p> <p>医療秘書科2年次にて4週間の医療機関実習。          (カリキュラムでは後期となっているが実習施設の都合で前期に実施することも多い)</p> <p>予め実習を受諾頂いた医療機関において、受付業務、レセプト計算業務、電話対応業務等の各医療機関に定められた医療事務業務、秘書業務を実践し、その処理能力、対応能力の現状把握と向上に努める。期間中は医療機関側に教育指導を依頼し、業務姿勢への指導、実践業務への教育を頂き、指定期間終了後は実習評価として、『基礎・能力』、『生活態度』、『実習態度』を4段階で評価を頂くこととしている。評価項目の詳細は次の通りとする。</p> <p>『基礎・能力』:基礎能力(保険・医療事務・医学等)についての基礎的な知識、学力は有しているか)          応用能力(指示された内容が良く把握され、工夫して仕事が出来たか)          事務実務能力(事務能力が上手くでき、計画的、創意的に仕事が出来たか)          『生活態度』:あいさつ(基本的なあいさつができていたか)          マナー(社会的なマナーが正しく守られており、折り目正しい生活態度がある)          コミュニケーション(周りとのコミュニケーションを図り積極的に取り組んでいたか)          『実習態度』:勤務態度(実習時の勤怠、研究心があり、熱意は見られたか)          身だしなみ(正しい服装ができ、爪、髪型などの清潔な印象を相手に与えたか)          日誌等の提出物(レポート・日誌等を毎日克明に記載し期日を守って提出していたか)          患者対応の態度(患者様の身になって不愉快な思いをさせないように対応していたか)</p> <p>以上の評価を確認しながら、本学担当教員についても学生の現状の習熟度と課題を明確に以降においての学習に努められるよう、実習期間前後の打合せ巡回訪問を重ねながら連携を図っている。</p>		
(3)具体的な連携の例		
科目名	科目概要	連携企業等
病院実習	実際の医療現場で、受付での患者対応や入院業務等を経験させてもらい今まで勉強してきたことがどれだけ活かせるかを図る。	医療法人ヘブロン会大宮中央総合病院 医療法人三慶会 指扇病院 医療法人光仁会 春日部厚生病院 医療法人刀仁会 坂戸中央病院 キッコーマン総合病院 他

<p>3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p>
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針</p> <p>実践的かつ専門的な職業教育を実施し、『相手のこうして欲しいをを理解し、自ら考え自ら行動できる人材』を育成していくため、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、以下のとおり教員研修の環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修</li> <li>・指導力の修得・向上のための研修</li> <li>・アクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法の研修</li> </ul> <p>なお、当該研修等を計画的に教員に受講させるにあたり諸規定に定められている。</p>
<p>(2) 研修等の実績</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>医療従事者を招いた医療業界についての変動や今後医療業界で求められる人材に関する学内研修の実施や、学外においても教員へ授業力向上に繋がる研修を実施している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 担任アンケート向上に向けた取り組みについて(平成28年8月23日)</li> <li>2) ユニバーサルマナー講習(平成29年8月23日) 株式会社ミライロ様</li> <li>3) 専門学校に求める人材育成について(平成29年8月25日) 三井記念病院 事務部医事課 シニアマネージャー 千葉 真一様</li> </ol> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>学内にて能動的学習方法である『アクティブラーニング』研修や教員力向上のための研修を教員が受講し、学生指導に導入している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) アクティブラーニング研修(平成28年3月30日)</li> <li>2) 人権教育研修(平成28年7月25日)</li> <li>3) 社会人基礎スキル研修(平成28年7月27日・8月19日)</li> <li>4) 新任FT研修(平成28年8月24日)</li> <li>5) 1年目振り返り研修(平成28年8月24日)</li> <li>6) コミュニケーション・マナー研修(平成28年8月26日)</li> <li>7) リーダーシップ研修(平成28年8月29日・30日)</li> <li>8) 聞く・ロジカルシンキング研修(平成28年8月29日・30日)</li> <li>9) チームマネジメント研修(平成28年11月26日・27日)</li> <li>10) 教員力向上研修(平成29年3月28日)</li> <li>11) 気付き・聴く・見逃さない&amp;伝える研修(平成29年7月28日)</li> <li>12) 教務ハンドブック研修(平成29年8月2日)</li> <li>13) クラスマネジメント研修(平成29年8月2日)</li> </ol>
<p>(3) 研修等の計画</p> <p>① 専攻分野における実務に関する研修等</p> <p>今後も学内外に問わず医療従事者を招いた医療業界についての変動や今後医療業界で求められる人材に関する研修の実施や、教員へ授業力向上に繋がる研修の実施を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療業界講話(平成30年3月下旬)</li> </ol> <p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p> <p>集団・個人を掌握するための研修や学生の知識・技術の定着を図るための『アクティブラーニング』授業風景を共有し更に積極的な授業への取り組み、能動的に学習する手法を学ぶ研修を実施したり、教員力の向上を目指した研修の実施を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) リーダーシップ研修(平成29年10月28日・29日)</li> <li>2) 1年目振り返り研修(平成29年11月11日・12日)</li> <li>3) アクティブラーニング推進者研修(平成30年3月下旬)</li> </ol>

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、医療分野の業界関係者及び卒業生、保護者、高等学校の教員等と共に、学校関係者評価委員会を設置して、当該専門分野における実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。また、評価結果は学校のホームページで公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

各項目ごとに話し合われた評価をまとめ、改善点について「短期・中期・長期」の視点より分類し、短期目標についての改善点について検討した上で、検討内容について次回学校関係者評価委員会へ提出することとする。

(4) 学修成果(5) 学生支援

【意見】

- ・卒業後に転職する際に相談できる窓口やシステムがあるとよいのではないか。
- ・在籍している時に卒業後の転職相談窓口など提示する必要がある。

【活用状況】

- ・同窓会サイトであるsanko.linkを作成し、在学中の告知を始めた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 利広	日本教育クリエイト	平成29年4月1日～平成30年3月31日	企業等委
櫻山 知世	大宮ビューティーアート専門学校	平成29年4月1日～平成30年3月31日	卒業生
薮島 純子	有限会社 はいしま	平成29年4月1日～平成30年3月31日	近隣住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

{ホームページ} ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) ( )

平成29年7月7日公表

URL:<http://www.sanko.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を実施することで、学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげる。また、入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあつた望ましい進路の実現に資すること。そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	●三幸学園について(事業案内、経営理念、歴史)
(2)各学科等の教育	●三幸学園の教育
(3)教職員	●講師紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	●学内店舗実習 ●インターンシップ
(5)様々な教育活動・教育環境	●施設紹介 ●特別ゼミ ●企業・地域コラボレーション
(6)学生の生活支援	●サポートシステム ●学生寮・一人暮らし
(7)学生納付金・修学支援	●募集学科・学費 ●学費サポート制度
(8)学校の財務	●監事監査報告書 ●資金収支計算書 ●消費支出計算書
(9)学校評価	●自己点検自己評価・学校関係者評価委員報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.sanko.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程医療秘書科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			看護学 (医療総論)	医療機関に勤める者の基礎知識である、法律(医療法)や職種について学ぶ	1通	30	2	○			○		○		
○			看護学 (解剖・生理)	医学的基礎知識を学ぶ。解剖学でからだの形と構造を生理学でからだの働きを学習する。	1通	75	5	○			○		○		
○			看護学 (薬理学)	各病気ごとの薬物療法に使用される薬について基礎部分を中心に学ぶ	1後	15	1	○			○			○	
○			看護学 (検査学)	病院で行われる医学検査について詳しく学ぶ	1後	15	1	○			○		○		
○			看護学 (病理学)	病気の成り立ちを細胞レベルから各臓器にいたるまで学ぶ	1後	30	2	○			○			○	
○			看護学 (医療用語)	病院で必要な医療用語を漢字や略語として学ぶ	1後	15	1	○			○		○		
○			ビジネス マナー	社会人としてのマナーと知識の基礎を学ぶ。サービス接客検定・ビジネス能力検定取得に向けての学習をする。	1通	75	5	○			○			○	
○			診療録管理学	診療録の必要性・重要性、管理体制を教科書をもとに学習する。	1前	15	1	○			○			○	
○			医事CP・ 電子カルテI	医療事務の基礎知識をもとに医事コンピュータを使用したの診療報酬算定技術を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程医療秘書科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			医科医療事務Ⅰ	点数表を読解し、社保・国保・退職者・後期高齢の外来、入院の点数算定を主に行う。	1通	300	20	○			○	○			
○			医療秘書概論	日本の医療保険制度や健康保険法を中心に医療の現場に必要な知識を学ぶ。	1通	30	2	○			○		○		
○			ペン字	硬筆書写技能検定2,3級を受験することにより、履歴書をはじめ、書類を専門的な技術、知識をもって書けるようにする。	1通	60	4	○			○		○		
○			電卓検定	電卓検定3級取得を目指す。その中で、基本的な電卓の使い方を学ぶ。	1前	15	1	○			○		○		
○			パソコン実習Ⅰ	パソコン技能検定3級の取得を目指す。Wordでは入力の基本、表作成、ビジネス文書の作成を行い、Excelでは基本的な操作方法(関数を含む)、グラフの作成を習得する。	1通	60	2			○	○		○		
○			成功の法則Ⅰ	フランクリン・コヴィーの「7つの習慣」を元に、成功するための思考行動習慣の法則を体系的に学ぶ。	1通	60	2	△	△	○	○		○		
○			プレゼンテーション実践Ⅰ	社会人になるに当たり必要なコミュニケーション能力を高める。	1通	60	4	○			○		○		
○			疾患学	病院で出会う患者さんの病気について内科的、外科的治療を中心に学ぶ	2通	60	4	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(商業実務専門課程医療秘書科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			看護学 (小児科)	子どもの成長・発達や保健（予防接種）について学ぶ。子どもの病気（症状、検査、治療など）について学ぶ。	2通	30	2	○			○	○			
○			看護学 (母性)	女性の体の仕組みを妊娠、出産のメカニズムを学ぶ	2前	15	1	○			○	○			
○			リスクマネジメント	医療機関で務めた時に遭遇するクレームや災害などのリスクにどう対応していくかを学ぶ	2前	15	1	○			○		○		
○			秘書実務	医療従事者のマナー・心得・患者様の心理とその対応など、医療機関での患者接遇を学ぶ	2通	30	2	○			○		○		
○			医事Ⅱ・ 介護事務	調剤事務、介護事務を学び様々な分野の知識を深める。	2通	60	4	○			○	○			
○			医事CP・ 電子カルテⅡ	医療事務の基礎知識をもとに医事コンピュータを使用しての診療報酬算定技術を学ぶ。	2前	30	2	○			○	○			
○			病院管理学と 社会保険	医療法をはじめ、医療従事者関連の各法律と病院の業務を知り病院経営管理の理論を学ぶ。	2通	30	2	○			○		○		
○			心理学	対人関係の具体的なスキルを身につけることと、その行動の意味を知る	2通	30	2	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程医療秘書科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			お金学入門	お金の歴史や銀行の仕組み、投資、保険、税金などお金にまつわる基本的な情報を学ぶ	2通	60	4	○			○			○	
○			歯科事務	歯の構造や治療の流れ、歯科医療事務の基礎知識を学ぶ。	2通	30	2	○			○		○		
○			手話	手話の必要性を理解し、基礎的な手話を学ぶことで、手話による自己紹介や簡単な会話を習得する。	2通	30	2	○			○			○	
○			ポップアート	POPペンの使い方、ポスター作成の基礎学習を実践的に学ぶ。	2通	30	2	○			○		○		
○			成功の法則Ⅱ	フランクリン・コヴィーの「7つの習慣」を元に、成功するための思考行動習慣の法則を体系的に学ぶ。	2前	45	1	△	△	○	○		○		
○			プレゼンテーション実践Ⅱ	社会人になるにあたり必要なコミュニケーション能力を高める。	2前	30	2	○		△	○		○		
○			病院実習	実際の医療現場で、受付での患者対応や入院業務等を経験させてもらい今まで勉強してきたことがどれだけ活かせるかを図る。	2後	180	6			○		○			○
	○		医事ゼミナール	1年時より難易度の高い症例を解きカルテを読み取る力を強化する。また、レセプト点検の手法を学び実践する。	2通	120	8	○			○		○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程医療秘書科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			医事ＣＰ・応用	医療事務コンピュータの知識をもとに、より高度な算定技術が必要な症例について学ぶ。	2通	30	2	○			○	○			
○			診療補助実習	患者様の日常生活を支えるために移動・食事・排泄などの解除を学ぶ	2通	60	2			○	○		○		
○			介護概論	介護に携わるにあたり、患者様と関わる上での心構えや準備、介護の概要を学ぶ	2通	30	2	○			○			○	
○			病棟実務	病棟における事務業務や患者様への対応業務、心理的アプローチを学ぶ	2通	60	4	○			○		○		
○			小児発達	小児期の発達を中心として小児期の疾病等について詳しく学ぶ	2通	60	4	○			○		○		
○			栄養学	栄養素に関する知識を深め、自らの食生活を見直し、健康を維持できるようにする。また、就職後もお客様に対して正しいアドバイスができるように学ぶ。	2通	30	2	○			○			○	
○			保育原理	乳幼児の発達に合わせたお世話の仕方や食事介助方法、遊びの支援などについて学ぶ。	2通	30	2	○			○		○		
○			児童心理学	誕生から思春期まで、子どもの心身の発達をわかりやすく学び、複雑化する社会のなかで起こる心の問題についても学ぶ。	2通	30	2	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程医療秘書科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			秘書概論	文書作成・来客対応・スケジュールリングなど、秘書業務の実際についてシミュレーション形式で学ぶ。	2通	60	4	○			○			○	
○			文書実務	文書の形式・敬語・時候の挨拶などの知識と日本語力など、社内・外文書の基本を学ぶ。	2通	30	2	○			○			○	
○			看護実習	患者さんの日常生活を支えるために移動、食事、排泄などの介助を学ぶ。	2通	60	2	△		○	○		○		
○			パソコン実習Ⅱ	パソコン技能検定準1級の取得を目指す。Wordでは入力の実用、図形（地図・組織図など）、段組み・ルビの作成を学び、Excelでは操作の実用と関数・VLOOKUP・HLOOKUP・AND・OR・データベース関数などを学ぶことで作図・はがき作成、検索・抽出・集計などを習得する	2通	90	3			○	○		○		
○			パワーポイント演習	ツールの違いやデジタルプレゼンの必要性を理解し、画面構成・表示モード・テキスト・図形・グラフ挿入を学ぶことでフリーデザインによるパワーポイント作成を習得する	2通	60	4	△	○		○		○		
○			医療文書作成・管理	医師事務作業補助者として日常業務上の医療に関する法規を学ぶ。	2通	60	4	○			○			○	
○			ドクターサポート	医療文書の分類、開示、医療用語、各文書の作成時の留意点を学ぶ。	2通	60	4	○			○		○		
○			医療関連法規	各医療文書のフォーマットを作成し、カルテから医療文書を実際に作成する医師の学会資料作成の留意点を学ぶ。	2通	30	2	○			○			○	
合計															
					科目	単位時間(単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(商業実務専門課程医療秘書科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	医療秘書実践Ⅰ	社会に出るにあたり、自らに必要な技術知識の習得や文化学習を行う(美容・健康・食・福祉・書など)	1前	38	2	○			○			○	
		○	医療秘書実践Ⅱ	社会に出るにあたり、自らに必要な技術知識の習得や文化学習を行う(美容・健康・食・福祉・書など)	1後	42	2	○			○			○	
○			ホームルーム	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項の確認を行う。	1通						○		○		
○			ホームルーム	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項の確認を行う。	2通						○		○		
合計			53 科目			単位時間(			151単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
所定の課程を修了し試験等に合格した者について、平素の成績及び性行を斟酌して認める。また、成績評定に関しては別に定め、出席時間数が授業時数の3分の2に満たない者については該当科目の認定をしない。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。